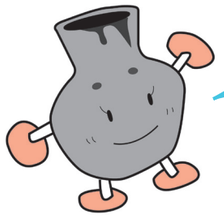
～ 風土記の丘地内発掘調査成果速報 ～

史跡出雲国府跡　現地説明会資料

令和5年 11月 23日（木・祝）
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
TEL：0852-36-8608



チョー♥ケイコちゃん

政庁ではどんなことが行われていたの？

古代の人は、どうしてそこまで大がかりな工事をしたんだろう（機械とかないし）…。

島根県教育庁埋蔵文化財調査センターでは、史跡出雲国府跡（松江市大草町）の実態を明らかにするため、平成27 年度から政庁域（政務をとる中心部分）の発掘調査を行っています。

近年、政庁の主要な建物である正殿・前殿・東脇殿などの柱跡が調査され、その構造や規模が明らかになっています。これらは最初は掘立柱建物でしたが、8世紀後半～9世紀前葉に礎石建物へと建て替えられています（前殿の建て替えについては不明）。

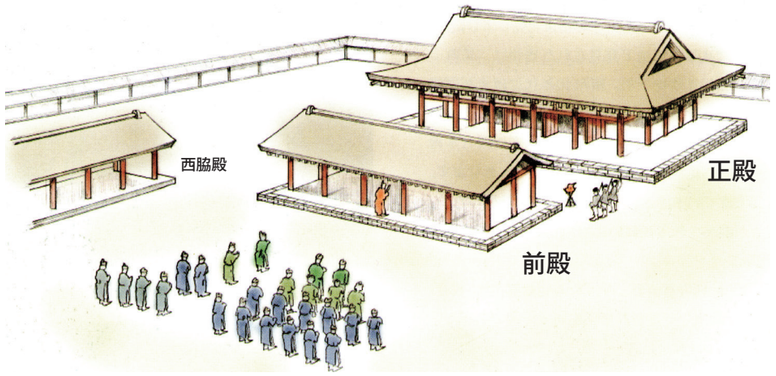
今年度の調査では、8世紀後半～9世紀前葉の整地土を確認しました。このことから、建物の礎石化に伴う整地と考えられます。つまり、政庁のリニューアルに先んじて、まずはしっかりと地盤改良を行ったことが明らかとなりました。大きな労力をかけた土木工事であり、古代の人々の熱意と苦労が伝わってきます。

今回の調査により、出雲国府政庁域の建物変遷を考える上で、大変貴重な成果を得ることができました。

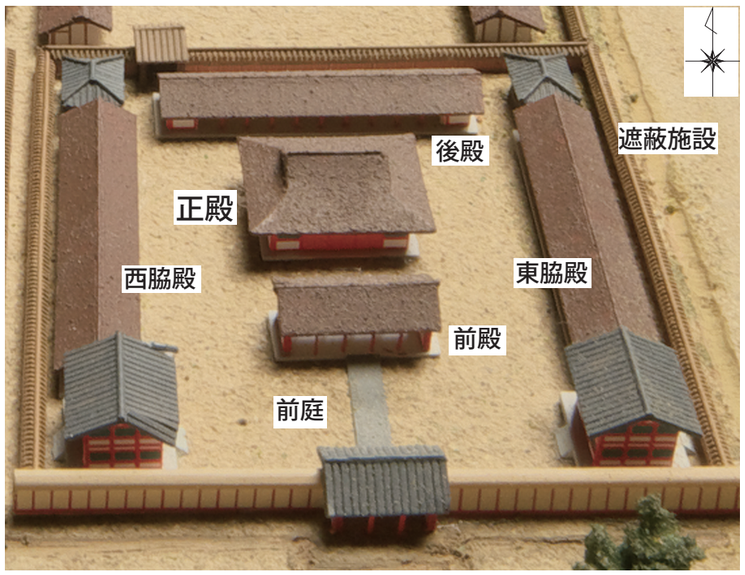
政庁では文書行政のほか、中央に倣った儀式が行われたよ。それに、饗宴の場としても大切な役割を果たしていたんだ。

出雲国の中核である政庁に、当時最新式で立派な「礎石建物」を取り入れるため、「知」と「技」を結集した一大事業だったことが想像できるね。

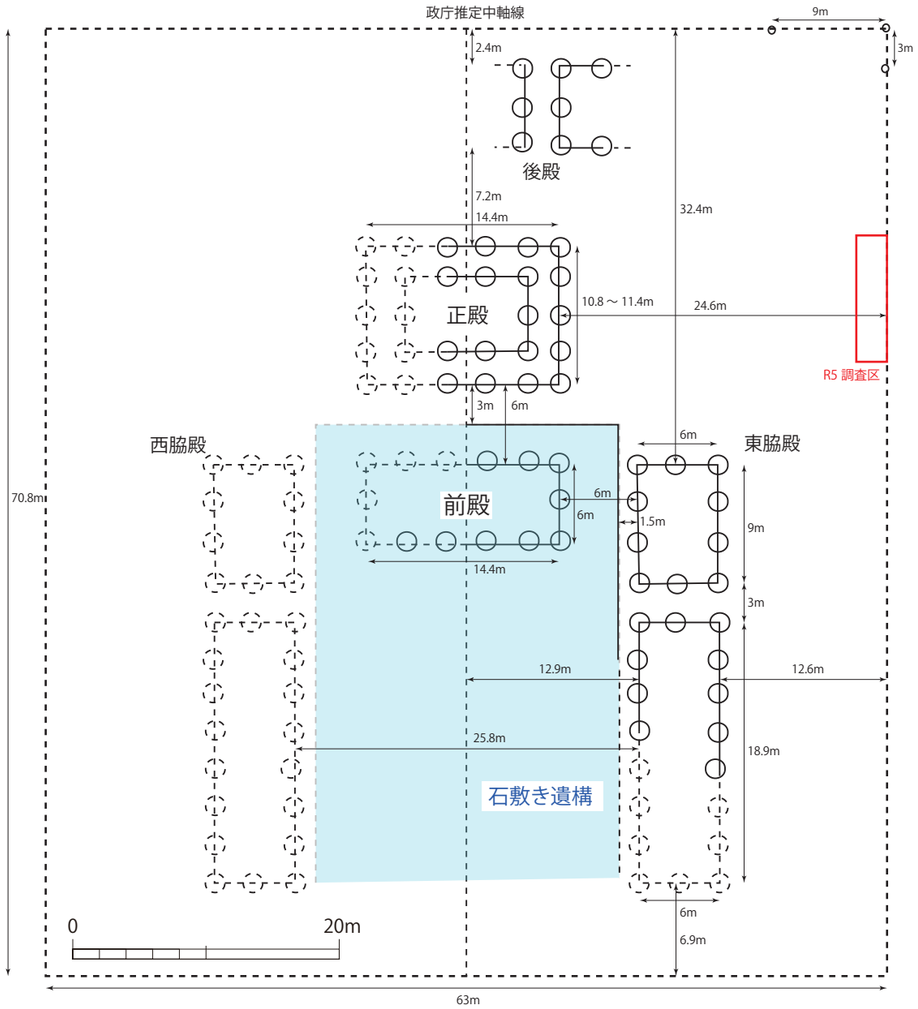
コクフさん



政庁での儀式の様子　〔八雲立つ風土記の丘 常設展示図録より〕



復元模型で見た出雲国府周辺の様子(左)と政庁（右）
〔島根県古代文化センター『出雲国府周辺の復元研究』2009年に加筆〕



出雲国府跡の復元模式図

令和５年度 史跡出雲国府跡 発掘調査成果概要

○ 調査箇所：政庁域のうち、正殿東側にあたる範囲（約25㎡）
○ 調査期間：令和5年9月19日～11月末（予定）

① 古代の整地土を確認

・整地土は、黄色土と黒色土の互層状になっている。
・最上部に盛られた土は、黄色みが強く固く締まっている。
・近現代の耕作土に削られており、本来の高さや広がりは不明。

② 政庁域の基盤層（地山）を確認

・政庁域の基盤層（地山）は、今回の調査で初めて明確となった。
・基盤層（地山）は、意宇川由来の段丘堆積によるもの。
→ 政庁域周辺は、元々周囲よりも段丘状に高くなっていた。

③ 古墳時代の遺構を確認

・地山を掘り込むようにして、古墳時代中期の遺構（溝あるいは大型の住居跡か）がある。
・古墳時代前期～中期の土器が多量に出土。

④ 整地土から墨書土器が出土

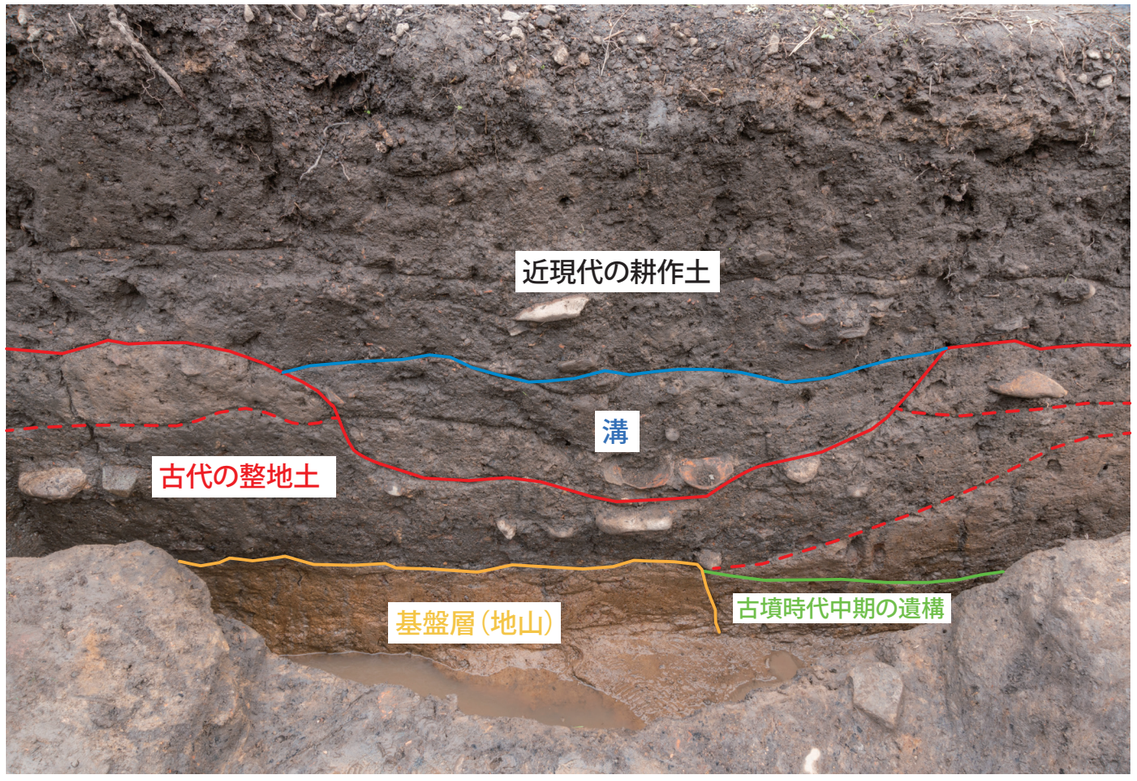
・須恵器の皿（8世紀後半～9世紀前葉）の外底部に墨書されている。
・後に硯（すずり）として再利用されたもの（転用硯）。
・「國（くに） 厨（くりや）（厨か）」と読める。

・この他にも、フイゴの羽口や花仙山産の碧玉（へきぎょく）、平瓦・丸瓦など多数の遺物が出土。

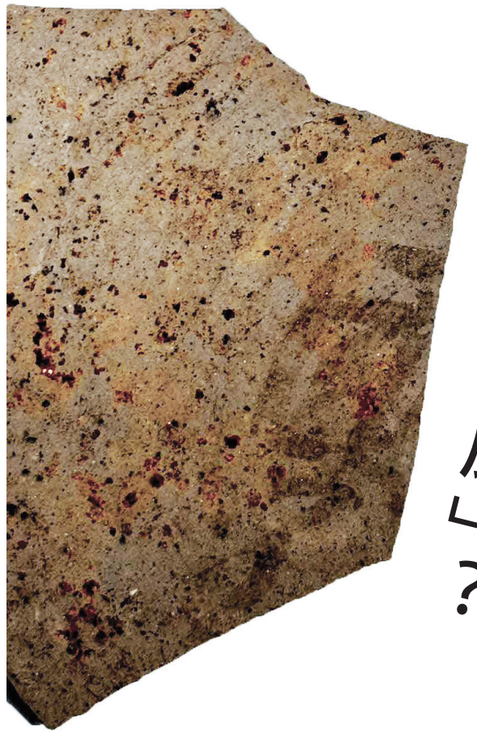
令和5年度調査区全景（南から）

検出した古代の整地土と溝（南東から）

拡大

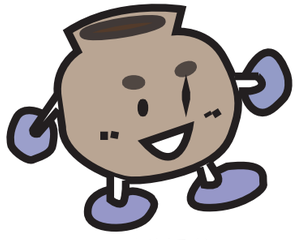


西壁土層断面の状況（東から）



「國厨」？

古代の整地土から出土した墨書土器



かめまろくん

「国府の食器だよ」
ってことなのかな？